

意向

薬剤師さんの病者への助けを感謝して、薬剤師さんのために祈りましょう。

説教の中で、教皇は福音の漁をする一番の力は主の喜び、聖霊の実りである喜びであることを確認しました。

説教

当時、エルサレムでは人々はいろいろな感情を持っていました。怒り、驚き、疑いです。その時、人々はペトロとヨハネが癒した生まれつき足の歩けないを手放しませんでした。すべての民がソロモンとして知られるポルティコに彼らを追いかけて向かいました。

人々はあっけにとられていました：人々が理解出来ないことが起こっていたので不安な雰囲気になっていました。主は弟子たちの方へ行きました。弟子たちも主がもう復活していることを分かっていました。ペトロはその日の朝、主と話したので、そのことが分かっていました。

エマオから帰ってきた二人も主の復活を知っていました。しかし、主が現れた時、彼らは恐れしました。「彼らは恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った。」彼らはイエスが湖の水の上を歩いてきたときも同じような経験をしました。

しかしこの時は、ペトロは勇気を持って主に言いました。「もしもあなたなら、わたしも水の上を歩かせてください。」ここではペトロは沈黙のうちにいました。その日の朝、主と話しました。しかし誰もどんな会話があったのか知りません。つまり彼は黙ったのでした。しかし彼らはあまりにも恐れおののいていたので、亡霊を見ているのだと思いました。

そしてイエスは言われます。「なぜ、うろたえているのか。どうして心に疑いを起こすのか。わたしの手や足を見なさい…」彼らに傷を見せながら。これがイエスの宝です。御父に見せるために、私たちの取り次ぎをするために、天に持って行った宝です。「触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もない…」

そして私に沢山の慰めをくれる個所が来ます。このためにこの福音箇所は私の大好きなところの一つです。「彼らが喜びのあまりまだ信じられず…」また、そしていつも、あまりの驚きと喜びのために彼らは信じる事ができません。あまりの喜びで、「いいや、こんなことは本当のことではない。この喜びは現実ではない、あまりの喜びだ」そして彼らは信じる事ができないのです。

喜び。大きな喜びの瞬間。彼らは喜びで一杯でした。でも喜びで麻痺をしていました。喜びはパウロがローマへの手紙で述べているように希望の一つです。「希望の主があなた方を喜びで満たしてくださいますように。」と言っています。喜びで覆われなさい。喜びで満たされなさい。喜び、前向きで、光り輝いていることとは別の何かであると主が私たちに分からせてくれる時、最高の慰めの経験です。

いいえ、これは別のことです。喜んでいること、私たちを本当に捉え、あふれる喜びで満たされているということは。だからパウロはローマ人に願ったのです。「希望の主があなた方を喜びで満たしてくださいように。」

この言葉、この表現「喜びで満たされる」は何度も何度も繰り返されます。例えば、牢屋の中で、ペトロは自殺しようとしていた看守の命を救います。地震で扉が開いてしまったからです。ペトロは彼に福音を告げ、洗礼を授け、この看守は信じたことで「喜びに満たされます。」

これはフィリポがキャンディス女王の会計係に洗礼を授けた時にも同じことが言えます。彼は「喜びに満ちた」自分の道を歩みました。昇天の日にも同じことが起きました。弟子たちはエルサレムに戻りました。聖書は「喜びに満ちて」と言っています。それは慰めの充満です。主の臨在の充満です。

なぜなら、パウロがガラテヤ人の手紙に言っているように「喜びは聖霊の実りなのです。」この喜びは何か素晴らしいことのために湧き出る感情の結果ではありません。違います。もっとです。私たちを満たすこの喜びは聖霊の実りなのです。聖霊がなければこの喜びはいただけません。聖霊の喜びを受けることは恵みなのです。これは、パウロ6世のヌンティアンディの使徒的勧告の最後の段落を思い出します。喜びに満ちたキリスト教徒、喜びに満ちた福音宣教者について語り、いつも悲しく生きている人々について語っていないのです。今日はそれを読むのに素晴らしい日です。喜びに満ちています。

ネヘミヤ記に今日この喜びに関する考察に良い一節があります。民はエルサレムに戻り、律法の書を見つけました。それは再発見でした。彼らは律法を暗記していましたが、律法の書を見つけていませんでした。それは素晴らしい宴会であり、人々は集まって書記官エズラが律法の書を朗読するのを聞きました。

感激した人々は泣きました。喜びで泣きました。なぜなら律法の書を見つけたからです。嬉しかったのです。泣いていました。最後に書記官エズラが終えた時、総督ネヘミヤが民に言いました。「安心なさい。もう泣かなくてもよい。喜んでいなさい。主を喜ばせることこそ、あなたがたの力であるからだ。」

ネヘミヤ記のこの言葉は今日私たちを助けます。私たちが変容するために、福音を漁するために人生の証として前にすすむために私たちが持っているこの偉大な力は聖霊の実りである主の喜びなのです。今日主にその恵みをいただけるように願ひましょう。

教皇はミサに続き聖体顕示と賛美を行い、聖体拝領ができないこのミサに与っている信徒に霊的聖体拝領へと招いた。

マリア様への賛歌、レジナ・チェリで終わりました。